

## 学校読書活動の取組【亀岡市立畑野小学校】

### 1 実践テーマ 「つながる・ひろげる」図書館教育

### 2 学校の概況、児童の様子

本校は亀岡市西部の穏やかな山間地にあり、周辺には野鳥が多数生息し、校内の樹木に営巣するなど自然豊かな環境に恵まれた、へき地・小規模校である。開校以来 130 年近くの伝統があり、大正 7 年に制定された校訓「誠・愛・勇」は生きる力、心の糧として継承されており、現在も体育館の右正面に校訓を記した扁額が掲げられている。



平成の時代に入り、京阪神からの転入が増え、一時は児童数 450 名を超えたときもあったが、平成 23 年度には 100 名を下回り、現在の児童数は 50 名あまりである。

児童は、休み時間に異なる学年同士が仲良く遊ぶ姿が目立つなど、落ち着いた学校生活を送っている。へき地・小規模校の利点を活かし、地域・家庭と連携しながら、「ふるさとを愛し、深く考え、心豊かにたくましく生きる児童の育成」を学校教育目標として、教職員の協働を大切にして日々の教育活動に取り組んでいる。

### 3 実践内容

○「つながる」「ひろげる」という二つの視点からのアプローチ  
「つながる」

- ・読書活動、ブックトーク等を仲立ちに「人とのつながり」を強める。
- ・児童間の人間関係、学級の集団づくり、個々の自己肯定感の向上を支援する。

「ひろげる」

- ・図書を活用することで教科学習の内容充実を図ったり、ねらいを達成したりするための効果的な図書の活用等を追究する。

○教科学習充実のための読書活用、三つのアプローチ

〔テーマ読書〕

- ・学習のねらいやめあてに沿った複数の図書から自分で選択し、必要な情報を得たり、興味を広げたりする。
- ・指導者が事前に教材分析を行い、図書活用によって何をねらうのかを明確にする。



〈はたのぶっくひろば〉  
(土曜図書館)開設  
- P T A 活動 -



〈教科学習の中で図書を選択〉

〔シリーズ読書〕

- ・ 同作者の作品や同シリーズの本を読み、個々の児童が読書意欲を高めたり、読んだ感想を交流したりする中で自己肯定感や自他理解等を深める。

〔並行読書〕

- ・ 教科の学習に関連する図書を読み、それを通して得た知識や考え方をもとにして、自分の考えの根拠を明確にしたり、友達との交流を深めたりする。



＜図書を使ったグループ学習＞

4 成果と課題

- ・ 日常の学校生活の中で、読書に親しむ児童の姿が増えた。
- ・ 図書を仲立ちとして、異年齢の児童間の関わりが増えた。
- ・ 授業場面で、図書から得た情報を根拠に話すことが増えた。  
また、学習したことを基に、発展的な読書活動につなげていく児童も出てきた。
- ・ 図書の活用が、児童の学習意欲の高まりとその持続につながっていることや学力の向上にとっても有効であることが確かめられた。
- ・ 図書の活用と、読む、聞く、書くといった学びの基礎をどのように関連づけていくか、また児童個々の読書活動を、授業の中での学び合いにどのようにしてつなげるか、その方策の研究をしていくことが課題である。（授業形態、授業展開等）

5 その他

○定期的に行われている取組

- ・ ボランティアによる読み聞かせ（週1回）
- ・ 異学年間の本の読み聞かせ

